

質問事項に対する回答書①

(件名) 関越自動車道 関越トンネル覆工空洞調査

番号	日付	資料の種類	ページ	章の番号等	質問事項	回答
1	2月27日	特記仕様書	25	2-4-2	空洞解析について 覆工空洞調査解析は今回の削孔調査126施設で行う背面空洞調査結果を用いた解析で、対象区間はKP148.33~KP150.66の範囲という認識で宜しいでしょうか。	覆工空洞調査解析は、特記仕様書2-4-2に記載のとおりです。 対象区間は、参考図の数量総括表(2/38~3/38)の覆工コア削孔の調査範囲(147.379KP~156.520KP)で実施する背面空洞調査結果等を用いた解析です。
2	2月27日	特記仕様書	3 12	1-5 2-3-2	「1-5 資料貸与」の中に覆工空洞調査報告書、詳細点検資料がありますが、これは「2-3-2 覆工コア削孔(2)手法」による覆工レーダー計測の業務ということとすると、レーダー計測を行われている場合、レーダー計測の測線上に今回の削孔調査の位置が計画されている理解で宜しいでしょうか。	「1-5 資料の貸与」に記載の覆工空洞調査報告書は、覆工レーダー計測を主体に覆工背面空洞の範囲・深さを調査しています。 上記調査での覆工レーダー計測位置は、トンネル覆工断面センターから走行車線側に1mの位置で実施されており、その測線上に今回の削孔調査の位置を計画しております。また、一部の非常駐車帯ではトンネル覆工断面センターから追越車線側に1mの位置に削孔調査の位置を計画しています。 なお、今回の削孔調査の位置は、覆工レーダー計測時に支障物(鉄筋・鋼矢板等)により背面空洞の測定ができなかった箇所になります。